

第 10 章 異常水質事故発生状況

I 対象期間

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

II 対象事故

平成24年度に環境局環境対策課で把握した魚死亡、油浮遊、濁水、pH異常等の異常水質事故

III 発生状況

1 異常水質事故発生件数

(1) 種類別事故発生件数

平成24年度に発生した異常水質事故は48件であった。前年度の36件と比べ12件増加した。異常水質事故の種類別では、着色水が21件と最も多く、次いで油浮遊が19件、魚死亡が4件、濁水が2件、その他が2件であった。

(2) 水系別異常水質事故発生件数(表X-1)

水系別では、東京湾で9件、多摩川水系で21件、鶴見川水系で18件の異常水質事故が発生した。

東京湾で発生した異常水質事故は、油浮遊が9件であった。

多摩川水系で発生した異常水質事故は、魚死亡が2件、油浮遊が5件、着色水が12件、濁水が2件であった。河川別では、多摩川本川で1件(油浮遊)、三沢川で1件(着色水)、平瀬川で11件(魚死亡1件、油浮遊3件、着色水6件、濁水1件)、二ヶ領用水で2件(魚死亡1件、着色水1件)、五反田川で4件(着色水4件、濁水1件)、山下川で1件(着色水)、六ヶ村掘下水路で1件(油浮遊)であった。

鶴見川水系で発生した異常水質事故は、魚死亡が2件、油浮遊が5件、着色水が9件、その他が2件であった。河川別では、矢上川で5件(魚死亡2件、油浮遊1件、着色水2件)、有馬川で4件(油浮遊2件、着色水2件)、麻生川で3件(油浮遊1件、着色水2件)、真福寺川で1件(油浮遊)、片平川で1件(その他)であった。

表X-1 水系別異常水質事故発生件数

水系	種類	魚死亡	油浮遊	着色水	濁水	pH異常	その他の水質異常	地下浸透	合計
東京湾	川崎港運河内		9						9
	川崎港運河外								0
	小計	0	9	0	0	0	0	0	9
多摩川	多摩川本川		1						1
	三沢川			1					1
	旧三沢川								0
	平瀬川	1	3	6	1				11
	二ヶ領用水	1		1					2
	五反田川			3	1				4
	登戸排水路								0
	山下川			1					1
	六ヶ村堀下水路		1						1
	宮内下水路								0
	大丸用水								0
	五ヶ村堀								0
	小計	2	5	12	2	0	0	0	21
鶴見川	鶴見川本川								0
	矢上川	2	1	2					5
	有馬川		2	2					4
	渋川								0
	麻生川		1	2					3
	早野川								0
	真福寺川		1						1
	片平川						1		1
	江川								0
	市外河川			3			1		4
小計	2	5	9	0	0	2	0	18	
合計		4	19	21	2	0	2	0	48

(3) 原因別異常水質事故発生件数(表X-2)

原因者が判明した異常水質事故は13件で、工場・事業場によるものが5件、建設工事によるものが4件、船舶によるものが2件、その他が2件であった。

工場・事業場に起因する5件の異常水質事故(魚死亡1件、油浮遊2件、着色水1件、その他1件)の原因は、作業ミス1件、施設の管理不備3件であった。建設工事に起因する5件の異常水質事故(魚死亡1件、油浮遊2件、着色水1件、濁水1件)の工事内容は、河川改修・管理が2件、建築工事が2件、その他の工事が1件であった。船舶に起因する2件の異常水質事故(油浮遊)の原因は、作業ミスであった。また、原因不明の異常水質事故は35件で、魚死亡が3件、油浮遊が12件、着色水が8件、濁水が2件、その他が2件であった。

表X-2 原因別異常水質事故発生件数

水系		種類	魚死亡	油浮遊	着色水	濁水	pH異常	その他の水質異常	地下浸透	合計
工場・事業場	施設の破損									0
	作業ミス			1						1
	施設の管理不備			1	1			1		3
	火災消火									0
	原因不明									0
	小計		0	2	1	0	0	1	0	4
建設工事	下水道工事									0
	河川改修・管理			1		1				2
	水道・ガス工事									0
	建築工事			1	1					2
	道路工事									0
	その他の工事		1							1
小計		1	2	1	1	0	0	0	5	
船舶	施設の破損									0
	作業ミス			2						2
	施設の管理不備									0
	原因不明									0
	小計		0	2	0	0	0	0	0	2
その他			0	1	0	0	0	1	0	2
原因不明			3	12	19	1	0	0	0	35
合計			4	19	21	2	0	2	0	48

2 異常水質事故発生状況の経年推移(平成6年度～平成24年度)

(1) 異常水質事故発生件数

平成6年度から平成24年度までの種類別異常水質事故発生件数を表X-3に示す。

過去19年間の平均発生件数は36件/年であった。

表X-3 種類別異常水質事故発生件数経年推移

種類	年度																			合計
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	
魚死亡	3	3	4	12	1	0	3	3	1	1	0	0	2	2	0	4	5	4	4	52
油浮遊	13	11	13	24	15	11	18	11	14	20	11	21	20	19	21	14	10	14	19	299
着色水	3	5	6	8	3	4	9	1	5	6	7	5	27	12	18	38	26	8	21	212
濁水	1	2	0	0	3	4	6	5	4	4	1	5	4	7	8	14	4	1	2	75
pH異常	3	2	5	4	2	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	21
その他	1	1	2	2	1	1	1	0	1	4	1	0	0	1	2	3	1	7	2	31
地下浸透	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	48	691

(2) 水系別異常水質事故発生件数

平成6年度から平成24年度までの水系別異常水質事故発生件数は表X-4に示す。

水系別発生件数は、海域では京浜運河(29件)、多摩川水系では平瀬川(175件)、鶴見川水系では矢上川(95件)が最も多かった。

表X-4 水系別異常水質事故発生件数経年推移

水系	年度																								合計
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24						
東京湾	川崎港運河外		1		4	1	1				3	1	2	3	4	3	2	1						26	
	末広運河						1			1		2				1								5	
	田辺運河	2	1	2	2				2	1	1				2	2	1			1	5			22	
	大師運河			1			1		1	1	1	3	1	4							1			14	
	京浜運河	2	2	2	3		4	2	1	4			3	1		2		1	1	1	1			29	
	千鳥運河					1		2			2		2				1					1		9	
	塩浜運河	1	3	1								1		1	1	1				4				13	
	池上運河	1		1						1	2		2			1								8	
	夜光運河		1																					1	
	水江運河			1												1								2	
	浅野運河				1				1	2	1			1			1							7	
	桜掘運河					1					2					2				1				6	
	南渡田運河						1							1	2									4	
	白石運河											1	2				1							4	
	川崎航路							1							1									2	
	境運河												1	1										2	
多摩運河																			1	1			2		
小計	6	8	8	10	3	8	5	5	12	10	8	13	12	12	11	6	2	8	9				156		
多摩川	多摩川本川				3	2			1	5	2			1	5	5	5	7	2	1			39		
	三沢川		1	1	1	3		2	1	1	1				2	2	4	1	1	1			22		
	旧三沢川		1								1		1										3		
	平瀬川	5	4	9	7	5	5	1	4	2	6	5	6	23	8	16	34	14	10	11			175		
	二ヶ領用水	6	6	2	8	3	2	5	5	1	2	4	4	3	3	3	1	3	3	2			66		
	五反田川	1			2	1	1	2	2				2	2	1		1	1	1	4			21		
	登戸排水路	1			1	1						1											4		
	山下川							2								1	1	1		1			6		
	六ヶ村堀下水路				1			2									1				1		5		
	宮内下水路			1				1			1						1						4		
	大丸用水				2			1	1					1									5		
五ヶ村堀							1															1			
小計	13	12	13	25	15	8	17	14	9	13	10	13	30	19	27	48	27	17	21			351			
鶴見川	鶴見川本川				1	1	1	1				1		1		3		1					10		
	矢上川	2	4	4	6	4	1	5	2		10	2	2	8	6	6	10	11	7	5			95		
	有馬川			1	3			4		2		1		3		1	3			4			22		
	渋川	1		1	1			1		1								1					6		
	麻生川			1	3		1	1		1	1				2	3	2	4	2	3			24		
	早野川			1			1						1		1								4		
	真福寺川	1			1	1					1		1			1	1				1		8		
	片平川	1		1				1					1					1			1		6		
	江川					1		1															2		
	市外河川※							1												1	4		6		
小計	5	4	9	15	7	4	15	2	4	12	3	6	11	10	11	19	17	11	18			183			
地下浸透	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	48			691			

※ 鶴見川水系の市外河川：平成12年度（真光寺川）、平成23、24年度（黒須田川）

(3) 原因別水質事故発生件数

平成6年度から平成24年度までの原因別異常水質事故発生件数を表X-5に示す。

原因不明の異常水質事故は過去19年間で平均23件/年であり、全体の63%となっている。原因の特定には、関係機関との連携に基づく異常水質事故発生当初の初動調査が重要である。

この初動調査における関係機関の連絡及び協力体制を確立するため、川崎市では市内関係機関との協議を基に、平成6年に策定した「川崎市異常水質事故対策要領」に基づき対応している。

表X-5 原因別異常水質事故発生件数経年推移

原因		年度																			合計
		H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	
工場・事業場	施設の破損	1	6	2		1	2	1	2	1	1	2		1	1					23	
	作業ミス	6		3	5	2	5	7	1	2	6	4	6	5		2	2	4	1	61	
	施設の管理不備		4	3	5	1		5	3	4	3	1	2	3	1	1	3		3	3	45
	火災消火			1	1										1						3
	原因不明																		1		1
	小計	7	10	9	11	4	7	13	6	8	10	6	10	8	3	2	5	2	8	4	133
建設工事	下水道工事	1				1		1	1						2	1	2			10	
	河川改修・管理		1	1		3					1	1		1					2	10	
	水道・ガス工事									1						1	2			4	
	建築工事			1		1		2			1		3	1	2	3	5		2	2	23
	道路工事				1				1	1			1				2				6
	その他の工事													2	2				3	1	8
小計	1	1	2	1	5	0	3	2	3	2	1	4	4	6	5	11	0	5	5	61	
船舶	施設の破損		1	1	3	1	2			1	3	2	1	2	1					18	
	作業ミス		1			1	1			2			1				1		1	2	10
	施設の管理不備													1				1			2
	原因不明													1							1
	小計	0	2	1	3	2	3	0	0	3	3	2	2	4	1	0	1	1	1	2	31
その他	1	1	3	5	4	0	2	2	2	3	1	2	0	2	1	0	0	2	2	33	
原因不明	15	10	15	30	10	10	20	11	9	17	11	14	37	29	41	56	43	20	35	433	
合計	24	24	30	50	25	20	38	21	25	35	21	32	53	41	49	73	46	36	48	691	

3 異常水質事故発生状況一覧

平成24年度に発生した異常水質事故の発生状況の一覧を表X-6に示す。

表X-6 異常水質事故発生状況一覧

発生・ 受信月日	発生場所			事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	その他			
4月2日 ・ 4月2日	4月2日	多摩川	多摩川 本川	川崎区 大師河原		○	①国土交通省 環境局環境対策課 ②関係機関 ③	多摩川右岸大師河原防災ステーション付近で油臭がすると、河川利用者からの通報を受け、関係機関が多摩川本川への油流出防止策、油回収措置を行った。実地調査では、本川への新たな油流出がない等の流出状況を確認した。原因者については、特定できなかった。		
4月5日 ・ 4月5日	4月5日	鶴見川	真福寺川	麻生区 王禅寺		○	①環境局環境対策課 麻生区役所道路公園センター ②環境局環境対策課 ③環境局環境対策課	自宅前の水路に油が流れており、臭いがひどいとの通報を受け、実地調査を行い、家屋解体現場を発生源として特定した。敷地内のドラム缶の底部が腐食し、20～30リットルの油が流出したと推定される。事業者に対して、油の回収、汚染土壌の撤去等の現状復帰を行わせた。	判明	原因者に対して、事後措置を早急にさせるとともに、事故原因の究明と再発防止策を顛末書として提出させるなどの行政指導を行った。
4月14日 ・ 4月14日	4月16日	多摩川	平瀬川 支川	宮前区 菅生		○	①環境局環境対策課 多摩区役所道路公園センター 宮前区役所道路公園センター ②	平瀬川支川のさかえ橋付近で白濁水が流出していることを河川工事が気づき、通報を行った。流出時間が短く、実地調査では白濁水を確認できなかった。魚浮上等の事案の発生がなく、水質は中性であった。流出経路が不明で、原因者については特定できなかった。		
4月18日 ・ 4月18日	4月19日	多摩川	平瀬川 本川	宮前区 菅生		○	①環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター ② ③	平瀬川本川・支川の合流前の本川右岸の水路から白濁水が流出してとの通報を受け、実地調査で通報者のヒヤリング、採取していた水質の簡易分析等を行った。流出経路が不明で、原因者については特定できなかった。		
4月22日 ・ 4月22日	4月23日	多摩川	五反田川	多摩区 西生田		○	①環境局環境対策課 多摩区役所道路公園センター ② ③	五反田川新川戸橋上流の暗渠から赤茶色の廃液が流出しているのを通報者が写真に撮り、翌日通報を行った。実地調査では赤茶色物質の痕跡を確認した。関係機関のヒヤリングでは、魚浮上事案や他の通報情報は寄せられていなかった。流出経路が不明で、原因者については特定できなかった。		

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
4月27日 ・ 4月27日	4月27日	鶴見川	有馬川	高津区 野川			○	①環境局環境対策課 多摩区役所道路公園センター 宮前区役所道路公園センター ②環境局環境対策課 ③環境局環境対策課	有馬川右岸に流入する水路において、白濁水が流出しているとの通報を受け、実地調査で白濁水の流出源を特定し、排出の停止と現状復帰措置をとらせた。原因は屋外設置の一斗缶から、雨によるオーバーフローで水性塗料が流出したものである。降雨で有馬川が濁水しており、水性塗料による川への影響は、把握できなかった。	判明	原因者に対して、事故原因の究明、応急措置、再発防止のための措置等の顛末書の提出と作業施設、内容の改善措置等の行政指導を行った。
5月7日 ・ 5月7日	5月7日	多摩川	平瀬川 本川	宮前区 菅生			○	①環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター ② ③	平瀬川の日向橋付近で白濁水が流出しているとの通報を受け、実地調査で白濁水を確認したものの、流出が止まっていた。上流・下流の調査で、河川状況・ヒアリング等を行うものの、水質事故が収束しており、原因者を特定できなかった。		
5月15日 ・ 5月15日	5月15日	東京湾	田辺運河	川崎区 扇町			○	①川崎海上保安署、港湾局 消防局、環境局環境対策課 ②関係機関 ③	田辺運河に油が浮遊しているとの通報を受け、関係機関に連絡した。油膜は200m四方に広がっており、オイルフェンスの敷設、吸着マット等による油の回収措置等を行った。油の流出源については、特定できなかった。		
5月22日 ・ 5月22日	5月22日	鶴見川	矢上川	宮前区 野川			○	①環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター 上下水道局西部下水道管理事務所 ② ③	矢上川山下橋上流右岸から白濁水が流出しているとの通報を受け、関係機関とで実地調査を行った。白濁水の追跡調査中に流出が止まり、発生源を特定できなかった。発見から収束までは、短時間であった。		
5月24日 ・ 5月24日	5月24日	鶴見川	麻生川	麻生区 上麻生			○	①環境局環境対策課 麻生区役所道路公園センター ② ③	麻生川大谷戸橋下流左岸から白濁水が流出しているとの通報（午後7時頃）を受け、実地調査で魚浮上事故等の発生がみられないこと等の現状把握を行った。また、周辺地区での聞き取りや排水系統調査を実施したが、原因者については、特定できなかった。		

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
5月27日 ・ 5月27日	5月27日	鶴見川	有馬川	高津区 野川	○			① 調査 ② 回収等対策 ③ 工場等指導	矢上川五反田橋上流の有馬川から油が浮遊しているとの通報を受け、関係機関との実地調査を行った。下流への影響は、拡散等により油膜の影響はなかった。上流調査を行うものの、油膜がなくなり油流出源を特定できなかった。		
5月29日 ・ 5月29日	5月29日	東京湾	京浜運河	川崎区 水江町	○			① 川崎海上保安署、港湾局 消防局、環境局環境対策課 ② ③ 関係機関	京浜運河に面した棧橋での油の荷卸の際、操作手順の誤りにより潤滑油が50L程度運河に流出した。関係機関は、1次及び2次オイルフェンスの展張及び吸着マットによる回収の措置をとった。	判明	原因者に対して、事故原因の究明、応急措置、再発防止のための措置等の報告書の提出等の行政指導を行った。
6月4日 ・ 6月4日	6月4日	鶴見川	麻生川	麻生区 上麻生		○		① 環境局環境対策課 麻生区役所道路公園センター ② ③	麻生川大谷戸橋下流左岸から白濁水が流出しているとの通報（午後7時頃）を受け、実地調査を行った。白濁水による魚浮上等は見られず、水路からの流出は止まっていた。流出経路が特定できず、原因者には特定できなかった。本事故は、5月24日に発生した事故に類似していることから、この地区での事故防止の周辺調査や普及啓発事業を展開するものとした。		
6月22日 ・ 6月22日	6月22日	鶴見川	麻生川	麻生区 片平		○		① 環境局環境対策課 麻生区役所道路公園センター ② 関係機関 ③ 関係機関	麻生川柿生新橋付近での河川工事において、使用していた装置の転倒により油流出のおそれがあることから、オイルフェンス、吸着マットの敷設などの措置をとった。河川への油流出による下流への影響は、生じていないことを確認した。	判明	原因者に対して、事故原因の究明、応急措置、再発防止のための措置等の報告書の提出等の行政指導を行った。
7月2日 ・ 7月2日	7月2日	東京湾	田辺運河	川崎区 扇町		○		① 川崎海上保安署、神奈川県警察 港湾局、消防局 川崎区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ② 関係機関 ③	田辺運河に油が浮遊しているとの通報を受け、関係機関に連絡した。関係機関は、共同排水口からの油の流出を防止するとともに、油の回収等の措置を行った。共同排水口に関連する排水路の追跡調査を行うものの、発生源の特定に至らなかった。対策として、共同排水口にオイルフェンスの敷設及び一部区間の清掃等を行った。		

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
7月4日 ・ 7月4日	7月4日	鶴見川	有馬川	宮前区 野川			○	① 環境局環境対策課 高津区役所道路公園センター 宮前区役所道路公園センター ② ③	矢上川の五反田橋付近で白濁水が流れているとの通報を受け、関係機関に連絡した。関係機関との初動調査により、下流からと上流からの追跡調査により、汚染範囲・河川への影響・排出源の最上流を突き止めたものの、原因者を特定するにいたらなかった。周辺の事業者に聞き取り調査を行うとともに、水質事故未然防止の普及啓発を行った。		
7月13日 ・ 7月13日	7月13日	東京湾	田辺運河	川崎区 扇町			○	①川崎海上保安署、神奈川県警察 港湾局、消防局 川崎区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ②関係機関 ③	田辺運河に油が浮遊しているとの通報を受け、関係機関に連絡した。7月2日発生の油流出事故と同様に、流出経路の清掃と油の回収等の措置を行った。共同排水口に油吸着マットを敷設する等を行った。		
7月21日 ・ 7月21日	7月21日	鶴見川	矢上川	宮前区 馬絹			○	①環境局環境対策課 神奈川県警察（宮前警察署） ② ③	矢上川の馬絹交差点付近で油膜が浮遊しているとの通報を受け、宮前警察署が実地調査を行うものの、既に馬絹交差点付近の矢上川で油膜が確認できず、油の流出経路が不明で、原因者については特定できなかった。		
7月24日 ・ 7月24日	7月24日	多摩川	平瀬川	宮前区 平			○	①環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター ②宮前区役所道路公園センター ③	平瀬川の東橋から平橋の間で小さな魚が死んでいるとの通報を受け、関係機関との実地調査を行った。状況として、大きなコイが泳いでいる中で、アユの稚魚が死んでいるのを確認した。魚の回収と水質調査（有害物質等）を行ったが、シアン・残留塩素等について検出されなかった。また、pH・溶存酸素も異常がなかった。水質以外に周辺事業者への聞き取り調査等の原因究明を行うものの、原因特定にいたらなかった。		

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
8月1日 ・ 8月1日	8月1日	多摩川	五反田川	多摩区 生田			○	① 環境局環境対策課 多摩区役所道路公園センター ② ③	五反田川の生田大橋付近で白濁水が流出しているとの通報を受け、実地調査で白濁水の汚染範囲及び河川への影響（魚浮上事故の発生の有無等）を確認した。通報場所から100m上流の河川で、プラスチック袋から流出した白濁の痕跡を発見し、流出源と特定した。不法投棄の可能性が高く、原因者を特定できなかった。		
8月7日 ・ 8月7日	8月7日	多摩川	平瀬川	宮前区 菅生			○	① 環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター ② ③	平瀬川の日向橋付近で油が流出しているとの通報を受け、関係機関に連絡した。関係機関と初動調査を行うものの、既に油の流出が止まっており、薄い油膜を確認し、周辺事業所への聞き取り調査、排水経路確認調査を行うものの、油の流出源については、特定できなかった。		
8月17日 ・ 8月17日	8月17日	東京湾	千鳥運河	川崎区 千鳥町			○	① 川崎海上保安署、神奈川県警察 港湾局、消防局 ② 関係機関、原因者 ③ 環境局環境対策課 等	市営埠頭に着岸している外国船籍から燃料油登載中に油が海上へ流出したとの通報を受けた。給油船は、事故発生後直ちにオイルフェンスの展張、吸着マットによる油の回収等の措置をとった。関係機関による事情聴取等により、原因の解明が行われた。	判明	原因者の関係者に対して、油流出事故発生経緯、事故時の措置等を記載した報告書の提出及び再発防止の指導を行った。
9月6日 ・ 9月6日	9月6日	鶴見川	黒須田川	麻生区 王禅寺			○	① 環境局環境対策課 麻生区役所道路公園センター 横浜市環境創造局、青葉区役所 ② ③ 環境局環境対策課 等	黒須田川（横浜）に緑色の水が流れているとの通報を受け、関係機関と実地調査を行った。流出経路から事業所からのアオコが原因であることが判明した。事業所の排水時の管理不備（アオコの流出）によるものであった。	判明	原因者に対して、事故原因の究明、事故時の措置、排水作業手順の改善策等を記載した報告書の提出及び再発防止の指導を行った。
9月19日 ・ 9月19日	9月19日	東京湾	田辺運河	川崎区 扇町			○	① 川崎海上保安署、神奈川県警察 港湾局、消防局 環境局環境対策課 ② 関係機関、原因者 ③ 環境局環境対策課 等	製造業事業者から、施設管理の不備から油流出事故が発生したとの通報を受け、関係機関への連絡及び実地調査を行った。事故時の措置として、関係機関等により二次災害の防止、油の流出防止、回収等の措置が行われた。原因究明及び油の処理等が直ちに行われた。	判明	原因者に対して、事故原因の究明、事故時の措置、施設管理の改善策等を記載した報告書の提出及び再発防止の指導を行った。

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
9月24日 ・ 9月24日	9月24日	東京湾	田辺運河	川崎区 扇町	○			①川崎海上保安署 環境局環境対策課 ②関係機関 ③	田辺運河に油が浮遊しているとの通報を受け、関係機関への連絡及び実地調査を行った。共同排水口に敷設しているオイルフェンスを越流して油が流出したことにより、油膜が周辺海域に浮遊していることを確認した。関係機関による油処理の措置及びオイルフェンスに油吸着マットを二重に敷設するなどの措置を行った。		
9月25日 ・ 9月25日	9月25日	多摩川	平瀬川 支川	宮前区 菅生			○	①環境局環境対策課 宮前区役所道路公園センター ② ③	平瀬川支川原台橋付近で白濁水が流出しているとの通報を受け、実地調査を行った。初動調査により流出先が判明したことから、周辺事業所への作業内容等の聞き取り調査を実施した。白濁水の最終樹の確認ができなかったことから、原因者については、特定できなかった。白濁水は帯となって中流域まで影響したものの、魚浮上事故等の発生は見られなかった。		
10月3日 ・ 10月3日	10月3日	鶴見川	黒須田川	麻生区 王禅寺			○	①麻生区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ② ③	黒須田川へ流入する麻生区と青葉区の市境を流れる水路が白濁しているとの通報を受け、関係機関への連絡、実地調査を行うものの、発見から収束までの時間が短時間であったため、水質事故原因者の特定に至らなかった。水質は、濁度が上流で採取した河川水と比べ2倍程度、また、チタンが有意に含まれていることが確認されたことから、事故原因としてチタンが含有される水性塗料の混入が疑われた。		
10月9日 ・ 10月9日	10月9日	東京湾	大師運河	川崎区 千鳥町			○	①川崎海上保安署、消防局 港湾局 ②川崎海上保安署、港湾局 ③	大師運河で油浮遊事故発生の連絡で、関係機関が出動し、油膜処理にあたった。薄い油膜浮遊の原因については、油流出源の特定に至らなかった。		

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
10月15日 ・ 10月15日	10月15日	多摩川	二ヶ領 用水	多摩区 宿河原	○			①神奈川県警察 環境局環境対策課 多摩区役所保健福祉センター 多摩区役所道路公園センター ②多摩区役所道路公園センター ③環境局環境対策課 等	二ヶ領用水で大小さまざまな魚が10匹程度浮いているとの通報を受け、関係機関との実地調査により、原因が工事排水によるものと確認された。排水の停止と排出されたアルカリ性で汚染された水路の清掃及び約300匹の死魚の回収を行った。	判明	原因者及び関係者に対して、事故原因、事故時の措置、工事排水の改善策等を記載した報告書の提出及び再発防止の指導を行った。
10月15日 ・ 10月15日	10月15日 ・ 10月15日	鶴見川	片平川	麻生区 片平			○	①麻生区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ② ③	片平川に着色水（赤茶色）の排水が流出しているとの通報を受け、関係機関と実地調査を行った。汚染範囲が部分的で、周辺に排出源がないことから、試料を採取し分析を行った。	判明	水路中の溶解性鉄濃度より周辺河川水の方が高いことから、水路中の鉄イオンを鉄バクテリアが酸化鉄に代謝し、非溶解性としたためと推定された。また、試料中に鉄バクテリアが集まった針条の物質が観察されたことから、原因は鉄バクテリアの影響を受けていることが推定された。
10月22日 ・ 10月23日	10月22日	鶴見川	黒須田川	麻生区 王禅寺			○	①麻生区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ②麻生区役所道路公園センター ③	王禅寺日吉谷調整池に白濁水が留まった状態にあるとの連絡を受けた。白濁水については、関係機関が流出を防止し、回収措置をとった。白濁水の流出経路が不明で、原因特定にいたらなかった。		
10月23日 ・ 10月23日	10月23日	多摩川	山下川	多摩区 生田			○	①多摩区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ②事業者 ③環境局環境対策課 廃棄物指導課	山下川に通じる雨水側溝に白濁水が流れているとの通報を受け、関係機関との実地調査により原因が建築工事に用いた塗料であることを特定した。白濁水が河川までに達していないことを確認し、回収措置を行った。	判明	原因者に対して、事故原因、事故時の措置、塗装作業の改善策等を記載した報告書の提出及び再発防止の指導を行った。
11月7日 ・ 11月7日	11月7日	多摩川	平瀬川	宮前区 平			○	①宮前区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ②宮前区役所道路公園センター ③	平瀬川の平橋附近の水路から油が流出しているとの通報を受け、関係機関と連携して実地調査を行った。油流出は薄い膜の状態であり、オイルマットによる吸着措置を行った。油流出経路、発生源調査を行うものの、原因特定にいたらなかった。		

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
11月8日 ・ 11月8日	11月8日	多摩川	平瀬川	高津区 久地	○			① 調査 ② 回収等対策 ③ 工場等指導	平瀬川下流の多摩川との合流前の排水口から油が流出しているとの連絡を受け、関係機関が連携して油の流出防止を図るためオイルフェンス、油吸着マットの敷設等の措置を行った。原因は、植物油が付着した洗濯物の洗浄水であることを特定した。	判明	原因者に対して、事故原因、事故対策、再発防止のための措置等を記載した報告書の提出及び再発防止の指導を行った。
11月12日 ・ 11月12日	11月12日	多摩川	六ヶ村堀 下水路	高津区 諏訪	○			① 国土交通省京浜河川事務所 上下水道局中部下水道事務所 環境局環境対策課 ② 国土交通省京浜河川事務所 上下水道局中部下水道事務所 ③	諏訪排水樋管（六ヶ村堀下水路）で油が流出したとの連絡が入り、関係機関が放水路河口付近で漂っていた油の回収措置を行った。油流出経路が特定できず、原因究明にはいたらなかった。		
11月12日 ・ 11月12日	11月12日	多摩川	五反田川	多摩区 生田	○			① 多摩区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ② ③	五反田川生田大橋付近で赤色の排水が流れているとの通報を受け、関係機関との現地調査において着色水の確認ができなかった。工事関係等に各種確認作業を行ったが、原因は不明であった。		
11月15日 ・ 11月16日	11月16日	鶴見川	有馬川	宮前区 東有馬	○			① 宮前区役所道路公園センター 神奈川県横浜川崎治水事務所 環境局環境対策課 等 ② 宮前区役所道路公園センター 神奈川県横浜川崎治水事務所 事業者 ③ 環境局環境対策課 等	有馬川に通じる水路での油含有汚泥の流出事故との連絡が入り、関係機関に連絡するとともに現地調査を行った。汚泥の川への流出防止措置として、オイルフェンス・油吸着マットの敷設を行った。原因は、火災事故による汚泥の流出であった。川への流出防止策として、側溝・下水配管・水路について汚泥の全量回収と洗浄清掃の措置を行った。	判明	原因者に対して、事故の概要、事故原因、事故対策、再発防止のための措置等を記載した報告書の提出及び再発防止の指導を行った。
11月16日 ・ 11月16日	11月16日	鶴見川	矢上川	高津区 久末	○			① 高津区役所道路公園センター 神奈川県横浜川崎治水事務所 環境局環境対策課 ② 神奈川県横浜川崎治水事務所 高津区役所道路公園センター ③	矢上川の上鷹巣橋から鷹巣橋の間で小魚が100匹程死んでいるとの通報を受け、関係機関に連絡した。関係機関との現地調査では、河川水・死魚の採取及び死魚の回収（300～400匹）措置を行った。同日の有馬川の油含有汚泥の流出がこの地点でも確認された。		

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
12月5日 ・ 12月5日	12月5日	東京湾	多摩運河	川崎区 小島町	○			① 川崎海上保安署、消防局 港湾局、環境局環境対策課 廃棄物指導課 ② 港湾局 ③	多摩運河で油浮遊事故が発生したことから、関係機関が出動し、油膜処理、オイルフェンスの敷設等の措置を行った。排水口上流の事業者への立ち入り等を実施したが、油流出源の特定にいたらなかった。水質事故防止啓発チラシを各事業所に立ち入り配布し、水質事故未然防止の普及を図った。		
12月13日 ・ 12月13日	12月13日	多摩川	平瀬川	宮前区 菅生			○	① 宮前区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ② ③	平瀬川柳橋付近の河川水が濁っており、泡も見られるとの通報を受けた。関係機関の初動調査では、既に濁水が消出していることを通報者と確認した。さらに、上流、下流、周辺調査を行うものの、原因特定にいたらなかった。		
12月19日 ・ 12月19日	12月19日	多摩川	平瀬川	宮前区 菅生			○	① 宮前区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ② ③	平瀬川日向橋付近で白濁水が流出している通報を受けた。関係機関の初動調査では、既に白濁水が流出した後で、本川と支川の合流部に濁水の痕跡を確認した。さらに、上流、下流、周辺調査を行うものの、原因特定にいたらなかった。		
12月21日 ・ 12月21日	12月21日	鶴見川	矢上川	高津区 久末	○			① 高津区役所道路公園センター 神奈川県横浜川崎治水事務所 環境局環境対策課 ② 環境局環境対策課 ③	矢上川の鷹巣橋付近でコイが1～2匹浮いているとの通報が入り、関係機関と連携して実地調査を行った。コイ（体長約60cm）が死亡していたのは、河川内ではなく排水口であり、増水時に残り残された状態であった。措置として回収を行った。		
12月26日 ・ 12月27日	12月26日	多摩川	三沢川	多摩区 菅			○	① 多摩区役所道路公園センター ② ③	三沢川に通じる側溝に白濁水が滞留しているとの通報を受け、関係機関が現地調査を実施した。周辺で塗装工事を行っていた業者に聞き取り調査を行うとともに、作業に際して塗料の取り扱いに環境配慮するよう啓発を行った。流出経路が不明で、原因特定にいたらなかった。		

発生・ 受信月日	発生場所				事故区分			措置機関名	事故概要及び措置概要 (被害の程度を含む)	原因者 判明区分	原因者に対する措置 原因者の措置の概要等
	調査月日	水域名	派川名 運河名	場所等	魚 死亡	油 浮遊	そ の 他				
12月27日 ・ 12月27日	12月27日	鶴見川	黒須田川	麻生区 王禅寺東			○	①麻生区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ②麻生区役所道路公園センター ③	日吉谷調整池に青い泡だった水が流入しているとの連絡を受けた。汚水については、調整池内で滞留しており関係機関が回収措置をとった。実地調査では、流出の形跡とみられる地点はあったが、原因特定にいたらなかった。		
1月9日 ・ 1月9日	1月9日	多摩川	平瀬川	宮前区 菅生			○	①宮前区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ② ③	平瀬川蔵敷橋付近で白濁水が流れているという連絡を受け、関係機関と実地調査を行った。採水し、pHやパックステストで確認したが、特に異常は見られなかった。近隣の方にヒアリングを行ったところ、12月中旬頃から頻繁に白濁水が流れているということであった。柳橋付近で白濁が見られたが、周りの水路や上流では白濁が見られなかったため、原因特定には至らなかった。		
2月13日 ・ 2月13日	2月13日	多摩川	二ヶ領 用水	多摩区 東生田			○	①多摩区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ② ③	二ヶ領用水に合流する側溝に白濁水が流れているという連絡を受け、関係機関と実地調査を行った。原因者となり得る近隣の工事現場や歯科技工所に聞き取り調査を行ったが、原因特定には至らなかった。		
2月20日 ・ 2月20日	2月20日	多摩川	五反田川	多摩区 生田			○	①北部都市基盤整備事務所 ②事業者 ③環境局環境対策課 等	放水路トンネル工事で、作業前に閉めるべきバルブが開いていたため、泥水が五反田川へ流入し、下流400～500mまで川が濁った状態になった。原因である事業者が、流出経路である場内排水溝に堰を設置するという措置を行った。	判明	原因者及び関係者に対して、事故原因、事故時の措置、再発防止策等を記載した報告書の提出及び再発防止の指導を行った。
3月29日 ・ 3月29日	3月29日	鶴見川	矢上川	宮前区 野川			○	①宮前区役所道路公園センター 環境局環境対策課 ② ③	矢上川上野川橋付近で白濁水が流れているとの連絡を受けた。関係機関との実地調査により、上野川橋直近の水路から白濁水が流れていることがわかった。水路の上流は暗渠であるため、原因特定にいたらなかった。		
合 計					4	19	25			判明：13 不明：35	